

しずえ

礎

茨城県民間保育協議会青年部

第13号



- 新青年部々長あいさつ
青年部々長 大谷 隆 (勝田あすなろ保育園副園長)
- 全国青年保育者会議香川大会参加報告
平成 17 年 7 月 6 日～8 日 香川県高松市 サポートホール高松
- 子育てセンター視察報告
平成 17 年 7 月 1 日 水戸市立杉山保育所
平成 17 年 7 月 27 日 泉ヶ丘保育園
- 青年部全体会参加報告
平成 17 年 7 月 14 日 茨城県総合福祉会館大研修室
- 平成 17 年度青年部組織図

部長就任あいさつ

青年部々長 大谷 隆
(勝田あすなろ保育園副園長)

この度、青年部々長を仰せつかりました、勝田あすなろ保育園の大谷隆と申します。何かと不案内ではございますが、諸先輩方の作り上げてこられたものを大切にしながら、会員の皆様と共に青年部を盛り上げて参りたいと考えておりますので、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



さて、保育界はいま、時代のうねりに翻弄され、何かと先の見えない状況が続いておりますが、保育を取り巻く環境がいかに変わろうとも、我々は目前の子どもたちを置き去りにするわけには行きません。子どもたちの幸せを願い、子どもの育ちの部分にどう係わるのかと言う命題は不変であります。また経営という点で難しい舵取りを迫られる今日、これまで以上にそれらを両立させ、バランスをとって行かなければなりません。我々青年部は、「研修」・「広報」・「調査・研究」の3つの委員会を中心に、新鮮な感覚をぶつけ合い、お互いに切磋琢磨しながら研鑽を積んで参りたいと考えております。

足腰の強い保育園とはどのようなものか・・・常に選ばれ続ける保育園とは・・・など、「環境の変化に負けない独自性とサービス」をテーマに活動したいと思っておりますので、ぜひとも多くの若い皆様のご参加・ご加入をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



全国青年保育者会議香川大会参加報告

青年部広報委員共同記述

平成 17 年 7 月 6 日から 8 日までの 3 日間に亘って四国・高松において全国青年保育者会議が開催され、茨城からは青年部員 11 名が参加し大いに見聞を深めた。今年の NHK の大河ドラマが四国の地と所以がある「義経」ということもあり例年よりも多い 280 余名の参加者を数え盛大に開催された。



筑後実行委員長のあいさつ

1 日目は開会式の後基調講演として「今後の保育行政の展望」というテーマにより厚労省保育課長 尾崎春樹課長が現在保育関係者に特に関心の高い三つの話題について講演された。『総合施設』…この制度は小子化が進行している地方においては保育所と幼稚園を一体化して効率的に運営したいという要望と、待機児童を解消し在宅家庭への子育て支援を充実させたい都市部の要望を併せ持つ施設が作れないかというところから考えられた。その内容は①0 才から就学前の全ての児童を対象とする、②保護者との直接契約により受入れる、③保護者の必要に応じた時間だけ受入れる、④様々な設置主体による運営を特徴としている。それぞれの地域の実情に応じて自由度を与えようと 3 番目の制度として設計された総合施設は確かに理にかなっているが、直接契約制により弱者が排除されることはないか。またこれまで市町村が関与し財政措置が伴ってきたことで保たれてきた保育の質が低下しないかという問題点も併せ持っていると話された。



熱心に聞き入る会場のようす

『直接契約制、直接補助方式の導入』
…今年の 3 月に「規制改革・民間開放推進

30年計画」が閣議決定され保育の分野にも言及されている。その内容は保育を希望する保育所に直接申し込み当該保育所が審査決定を行い、保育所にでなく利用者に直接補助することを検討するとしている。これに対し厚労省は①待機児童が存在する中で障害児や母子家庭など最も保育サービスを必要とする者が優先的に利用できるのか②低所得者の利用が制約・排除されないか③利用料の高騰を招かないかといった課題がありその可否について長期的に検討することとしていると話された。

経済財政諮問会議がもうけた専門調査会「生活・地域ワーキンググループ」は子育てにおいては社会的な扶養も重要であるという観点から、子育て支援のための様々な公的支援策を統合し、介護保険と同様な仕組みの『育児保険』の創設を検討すべきであると提言している。これを受けて尾崎課長は厚労省としては、社会全体で次世代の育成を支援する施策について幅広く検討する事にしており「育児保険」についても様々な角度から慎重に研究を重ねていく方針である。また子育て支援には現物給付(保育サービス)、現金給付ともに高いニーズがあり、かつ少子化への対応は国家的課題であることから少子化の流れを止められるよう社会全体で少子化対策に取り組んでいく方針であると話された。

尾崎課長はある意味で対立関係にある文化省の課長から移動してきた方なのに、本当に保育の将来を心配し、現在の保育制度を守っていこうという考えを持っていることを知りとても心強く感じた。

今大会の会場の隣の建物に3人の『料理の鉄人』が支店を出しており、夕方の懇親会はこれらの店を「食べ歩き」ながら行うという趣向で行われとても楽しめた。高松名物の「うどん」をテーマに和・洋・中の趣向を凝らしたオリジナル料理は大変おいしく、鉄人の味の一端を味わう事ができ参加者に



パネルディスカッションでの川又氏

大変好評だった。

2日目の午前は3つのテーマを掲げパネルディスカッションが行われたが、討議に携帯電話のメールを使って参加するという青年部らしい新しい試みを取り入れられた。自分の意見をまとめてからメールを打つとタイミングを逸してしまい、中途半端に終わってしまう事が多かった。壇上のパネラーがもっと時間配分や進行の段取りを決めておく事で、効率よくテーマの結論を導き出せたように思う。今後、この方法を継続して参加者の多くの意見をくみ上げ、名物コーナーに育てていって欲しいと思った。また御前山保育園の川又先生がパネラーの一人として登壇し活発に発言していた。

午後からは五つの会場に分かれて分科会が行われたが、それぞれの分科会に参加した青年部員がコメントを寄せてくれたので以下に掲載した。



★第1分科会 「子育てにおける保育所の役割とは」

子育てにおける保育所の役割は？というテーマで、関東学院環境学部講師の大豆生田啓友氏が講演された。

現在、日本の社会の中で求められている子育て支援とは、0歳児保育、

第4分科会のように 延長保育、地域子育て支援センターなど、親の就労支援や子育ての軽減をはかるものが主となっている。ところが、社会や親のニーズにばかりの支援に注目が集まっており、そこには子どもが不在となっている。子どもの為の最善の支援を考えたときに保育所に出来る役割とは、親子を家庭から連れ出し、社会参加を促すことである。親の行動力を育て、子育て力をつけることにより、子育てに精神的な余裕が生まれ、結果的に子育てにもゆとりが出てくるということであった。

私達は日頃保育をしている中で、親の問題行動などにばかり目が行きがちであるが、まずなすべきことは親の心を理解する努力と、問題に対する確かなアドバイスを提供することであると感じた。

(つばさ保育園副園長 大高 明子)

★第2分科会 「財務分析スペシャル in 香川」

保育所の財務分析については、これまで明確な手法が確立されていなかったし、さほど必要性も感じなかった。しかし、新会計への移行や、資金運用法の改変などが行われ、これまでのように予算を消化させることで事業を評価する流れではなくなった。これまで通りの事業を行ないながらも、適確に先を見通した資金繰りを考えなくてはならない。

そして、そのための指標や戦略が必要だとは思っていたが、市販されている解説書はどれも我々の業種にはなじまないものばかりだったので、今回のこの分科会は大変に参考になった。

(勝田あすなろ保育園副園長 大谷 隆)

★第3分科会 「今から取り組む保育のリスクマネージメント」

保育施設のリスクマネージメントについてソニー生命株式会社から牧野氏、(有)ニッコートクノから稲口氏を迎え、3時間半にわたりお話をしていただいた。お二人とも「あまりにも保育とは無縁だったので、お客さんや関係業者に保育とはどういうものかを聞き、調べてみるととても不思議な業界だと感じた・・・」と話された。

保育業界にドップリ浸かっている私には、「不思議」という意味がよく分かりませんでした。他の業界の秘密保持の厳しさ、接客業務の大変さに比べて私たちの甘い点を指摘され、ようやくその「不思議」の意味が理解出来ました。

現在の保育業界は、都市部では「保育バブル」、過疎部では「保育氷河期」といわれるほど経営的には差がありますが、お二人から贈っていただいた「毎日を楽しく目的をもってやるべきことをやる」というエールを胸に日々の保育に取り組んでいきたいと思えます。

(御前山保育園主任保育士 川又 朋子)

★4分科会 「育児保険を考える」

平成12年の「介護保険」の導入により老人福祉に投入される資金が飛躍的に増え、老人介護分野の産業としての発展には目を見張るものがある。現在保育業界を中心に育児に使われている金額は医療や老人福祉に較べて

非常に少ない。健康保険と同じような『育児保険』を導入することで育児＝保育に投入される金額を大きく増額することができ、少子化の進行に歯止めをかけることが出来ると共に、潤沢な資金が確保されることにより保育業界の発展につながる。そして最終的には医療を含めた総合福祉保険制度を目指していくべきだと岩手県立大学教授福田素生先生は話された。

質疑の時間において、ある参加者が介護・医療は最終的に誰もが利用することになるが、子育てを終わった世代や子どもを持たない主義の人達に、新たな保険料の負担を求めるのは難しいのではないかという発言をしたが、この意見に共感させられた。

(ひまわり保育園々長 小橋 達也)

★5分科会 「本当に親の子育て力は低下したのか」

最初に「保育の現状」についてグループ討議を行ったあと、香川県国分寺中学校長竹下和男先生の講演に移りました。人間は虫・魚・鳥などと違い未完成のまま生まれ親が子育てしなければならない。ほとんどの親は自身がどのように育てられたかという記憶がなく、一人で子育てをすることができない。つまり人間は子育てを伝えるために生き続け祖父母から父母へ父母から子へと子育てが継続されてきたと話されました。

現在、核家族化が進み身近に子育てを教えてくれる人が少なくなっている状況で、保育士には祖父母や親の代わりに「子育て」を伝える役割が重要になってきている。そのためにはこれまで以上に親との密接な連携を図ることが大切なのだと思います。

私はこの研修会に参加して、これまで以上に保育・子育て支援へ真剣に取り組みたいと思いました。

(飯沼保育園保育士 萩野谷 友子)

3日目には記念講演として、まどか保育園理事長・保育創造セミナー代表の樋口正春氏が「保育とは生きる力を育てる教育」という演題で講演された。氏は子どもの絵本やおもちゃに関する研修や講演活動を行っており、保育園においてどのようなおもちゃや遊びが子どもの考える力や創造力を育てるかなどについて具体例を映像を見せながら話された。

本来子どもは、就学までゆっくり時間をかけて育つものだが、現在の子

ども達は行事や教育に追われている。しかし、本来保育園で6歳までに身につけるべきものは教育よりも育ちの部分である。また、最近の子ども達はおもちゃを持たせると、何でも、武器にし、「戦いごっこ」を始めてしまうという傾向が見られるが、その理由は、テレビの戦闘ものに勝る魅力的な活動がないからである。近ごろの保育士たちは都合のいいように園児を動かしがちで、子どもの主体性や自分で行動する力が育っていないことも関係している。

子どもは本来自分で生きる力をもっている。保育園に求められる子どもにとっての最適な支援とは、子どもの発達を助ける環境、子どもにとって安心できる環境を与えてあげるとこの講演を聞いて改めて感じた。

最後に、いろいろな大会に参加していつも思うことは、いろいろな情報を収集することや知識を得ることに主眼が置かれ、運営における具体的なテーマを提示し、その答えをどのように導きだしてゆくか、また日々の保育業務にすぐ役立つ実践的な内容のものが少ないように思う。そういう意味で今回の大会では、日々の保育にすぐ生かせるまどか保育園の樋口先生の実践的な講演がとても印象深かった。



大会を終えてホテルのロビーにて

次回の第28回全国青年保育者会議は

- ・富山国際会議場／富山全日空ホテルを会場に
- ・平成18年7月5日(水)～7日(金)に亘って開催されます。

子育て支援センター訪問記

これまで広報委員会では青年部員の保育園を訪ねる「ぬきうち保育園訪問」を行ってきましたが、年間計画を決める会議で一号ずつテーマを決めて記事にすることにしました。礎 13号では知ってようで意外と知らない「子育て支援センター」を取り上げ、杉山保育所と泉ヶ丘保育園を訪問しました。

★杉山保育所子育て支援センター

平成 17 年 7 月 1 日(金)に水戸市立杉山保育所の子育て支援センターを広報委員 5 名で(大谷、小橋、川又、大高、鈴木)視察させていただきました。ここは水戸市の公立保育所で唯一子育て支援センターを開設し、この分野で先駆的な役割を果たしている保育所です。10 時 30 分頃到着し、片根所長さん、斉藤主任さん、担当の沼尻保育士さんから設立からの経過、実施状況を説明していただきました。月曜から金曜まで園庭開放をしているということで子どもを連れてお母さん方が 10 組ほど楽しそうに遊んでいました。120 名定員と聞いていたので遊んでいる園児が少ないなと思っていると園児は、



10 時 30 分になると保育室に入ってしまう 11 時 30 分までは支援センター利用の子ども達だけになるそうです。

午後からのプレママ・ベビー広場では保育士さんが妊娠中のお



母さんや、乳児を持つお母さん方とお茶を飲みながら育児の相談や出産の心構えをお話していました。お茶を飲みながらの何気ないおしゃべりの中でこそお母さん方の悩みや心配事がでてくるそうです。また当日は市の保健婦さんによる保健指導と身体測定が行われていました。各行政機関と連携の取れる民間にはない公立保育所ならではの特色であると思いました。

★泉ヶ丘保育園子育て支援センター

7月27日(水)に広報委員7名で石岡市の泉ヶ丘保育園、子育て支援センター取材にうかがい「赤ちゃん広場」の様子を見させていただきました。

0才～1才6ヶ月のお子さんをつれた15組の親子が「赤ちゃん体操」を行っていましたが、指導者(担当者)

2名が親子と向き合って体操のやり方を見せながら説明し、あとで実際に親子でやっていました。小さな子どもたちにも笑顔が見られお母さんたちも親子での活動を楽しんでいる様子でした。



その後会議室に移動し渡辺園長先生や、副園長先生、担当の左近先生から平成10年に通常型子育て支援センター開始、平成13年に別棟で子育て支援センターを建設といったこれまでの経緯を説明していただきました。

現在の事業は、

- ①赤ちゃん広場 0歳児を育てる上で気をつけなくてはならないことや知っておかねばならない事を伝えてゆく。
- ②子育て広場 親子で出来る簡単な遊びを通して子どもと過ごす楽しさを感じたり、子どもたちが社会性を育てていく

- きっかけを提供する。
- ③ご本の日 様々な絵本に親しみ豊かな想像力や感受性を育むきっかけを提供する。
- ④園庭解放 担当保育者が見守るなか、親子で園庭の施設や遊具を使って自由に遊んでもらう。

という内容です。

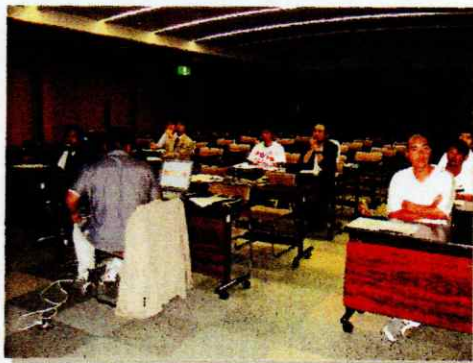
開設当初は母親が集まっておしゃべりを楽しむ息抜きの場と位置づけていましたが、年々親の意識が変化し基本的なマナー・ルールを守れない傾向が強まってきました。子育て支援センターを親の社会参加、親の育ちの場にしていくためにも



きちんとしたマナーで参加してもらうため、現在は細かな注意事項を記載した文書を配布しています。つまり親自身の育ちも支援しなければ真の子育て支援にならないという考えのもと日々の業務に励んでいるというお話でした。

青年部全体会に参加して

はぐろ保育園副園長 柴山 俊行



工業高校を卒業した私が、まったく畑のちがう保育という仕事につき、右も左もわからないまま早くも3年目に突入し、今年度から副園長に就任しました。「このままじゃいかん」と思っていたそんな時、青年部への誘

いを受け、みなさまの仲間入りをさせていただくことになりました。

7月14日(木)、私はこれから始まる全体会とはどんなものなのか、期待と緊張に胸を膨らませつつ石田保育園、新井平一副園長先生の運転する車の助手席に乗り、保育サービスについてあーでもないこーでもないと熱く意見を交わしながら、水戸の茨城県総合福祉会館に向かいました。

大研修室で待っていると青年部の各委員会の方々が集まりだし、それぞれプレゼンテーションの準備やら打ち合わせをしているうちに青年部全体会が始まったのでした。

まず、青年部々長大谷先生の挨拶、保育サービスの現状、幼保一元化、総合施設などのお話が続き私にとってはとても勉強になる内容で、保育園の経営をしていくにあたりこれからやらなきゃいけないことがたくさんあるなあ・・・とつくづく思いました。

各委員会のプレゼンテーションでは、パワーポインターを使うなどしてどんな活動をしているのかとても解りやすく興味深く聞けました。

全体会夜の部(懇親会)ではこれでもかと言わんばかりの大量のおいしい料理を食べ、おいしいお酒を飲み、わいわい談笑しているうちに青年部の人たちと自然と仲良くなれました。

私が青年部に入って良かったと思うのは、私よりも遥かに知識豊富な先生方と知り合えて、いろいろとアドバイスをいただき、また、たくさんの保育園を見学させていただけることです。自分の保育園と比較して、ここは見習って改善すべきだなあなど、普通に過ごしていたらまったく気がつかないところがたくさん見つかりとてもプラスになります。今後たくさんの刺激を糧に自分を磨いていこうと思っています。

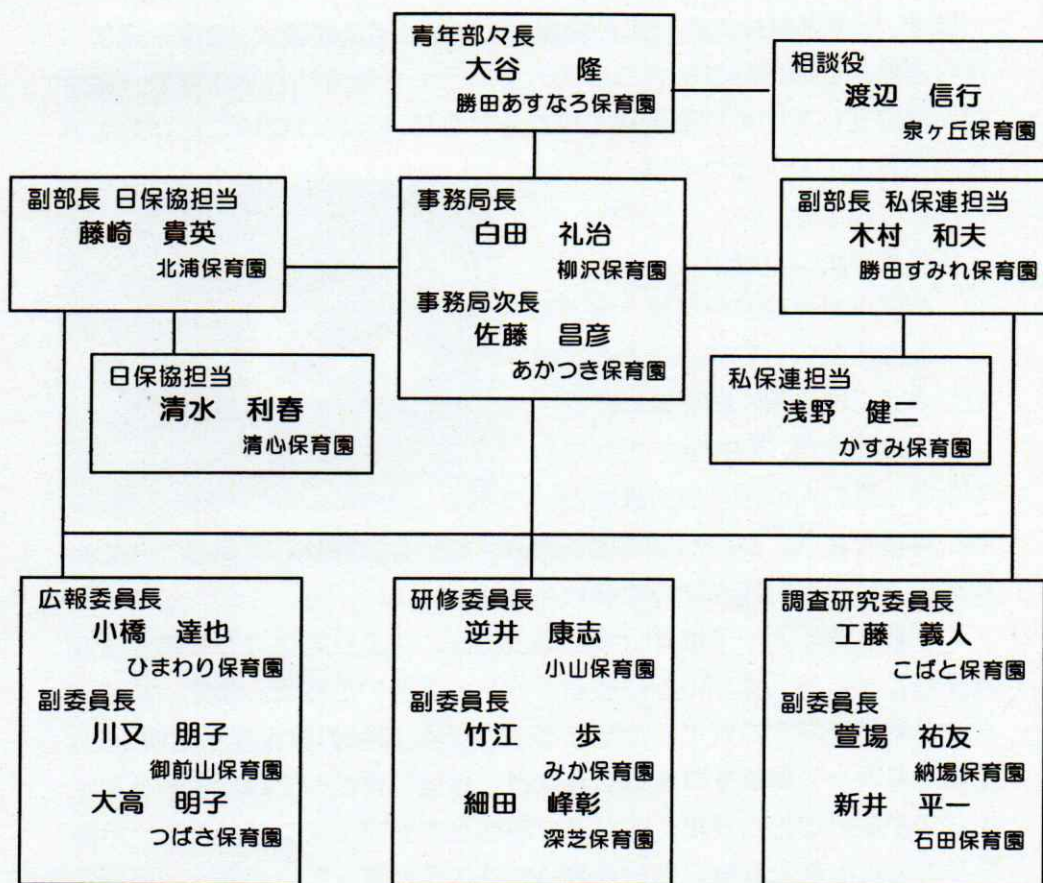
青年部はとても良いところですよ。私の所属している調査研究委員会は何でだろうと疑問に思っていること、みんなはどんなことをしているん



だろうということを調べられ、いろんなことが分かります。委員会活動以外でも集まって、何か楽しい事をやっているかもしれません（笑）

この記事を読んでくれているみなさんも青年部に入って保育界全体を盛り上げましょう！！

平成 17 年度青年部組織図



★青年部員を随時募集中、参加希望の方は事務局・白田(柳沢保育園
Tel.029-263-5800)までご連絡ください。

編集後記

暑い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
最近の話題と言えば、解散総選挙・郵政民営化ですね…色々な意見があると思いますが、難しい話は置いておいて。

先日、青年部役員会にオブザーバーとして出席させて頂きました。席上、大谷部長が「保育の基盤をしっかりとしたものにして、地域から必要とされる園にしなければならない。」というお話をされてました。うんうん、納得！と心の中でつぶやきながら聞いておりました。

必要なもの、不必要なものとは何でもはっきり分けるご時世ですが、「私は本当に保育園に必要だろうか？」と自分自信に問い直してしまいました。!! 答えは内緒です。・・・(笑)

メロン村の Raoji

〒310-8586 水戸市千波町 1918

茨城県民間保育協議会青年部広報委員会

平成 17 年 8 月発行

